

# 三重大学地域戦略センターの活動②

## 三重県と連携した地域企業による国際展開の支援

### CSEM社（スイス）

平成25年1月、三重大学を加え、中小企業支援の更なる促進に向けて覚書のリニューアルを実施。



#### 「CSEM-三重連携オフィス」の設置

県内のみならず日本国内の企業・大学とスイスCSEM社とを結ぶ“ホットライン”の日本側拠点（ハブ機能）との位置づけとして、三重大学地域戦略センター（RASC）内に「CSEM-三重連携オフィス」を設置



平成27年1月（予定）  
三重県と三重大学がCSEM社との具体的な連携方法・関係機関のネットワーク構築を目的に、現地訪問予定。



#### CSEM社 （スイス連邦 ヌーシャテル州）

スイス国内および海外（UAE、ブラジル）に拠点を有するマイクロテクノロジー分野のイノベーション推進機関。政府と民間企業が共同出資し、大学からの技術移転や中小企業を主とした産業界への支援など公益性の高い活動を実施。



### フラウンフォーファー研究機構（ドイツ）

平成24年1月にフラウンフォーファー研究機構、三重大学、三重県の3者により「相互協力に関する協定」を締結。

#### 【協定の主な内容】

- グローバルな産学官連携を推進
- 三重県の「クリーンエネルギーバレー構想（案）」に関連する戦略立案や将来的なプロジェクト構築における連携



平成25年1月  
フラウンフォーファー研究機構より研究者を招へい。県内中小企業等との次世代電池などをテーマにしたミーティングを実施。



高度部材イノベーションセンター（三重県四日市市）  
平成20年、フラウンフォーファー研究機構のショールームを設置。ビジネス・パートナーや地元産業界と協力して、新しい素材や用途の開発を実施。

#### フラウンフォーファー研究機構 （ドイツ連邦共和国 バイエルン州）

ドイツ国内に約60箇所の研究所を有する欧州最大の研究機関。技術移転や研究開発アウトソーシングの受託サービス等を提供している。



# 地域内連携による高収益型農業の創出



辻製油株式会社



辻保彦社長

1947年に国産なたね搾油専門工場として、辻製油所を創立し、一貫して食用油の精製・販売を行ってきた三重県松阪市にある企業であるが、食用油精製残渣からレシチン、セラミド等、機能性素材を独自技術で製品化するなど、食素材の総合メーカーとして成長を続けている。



三重県内の山林荒廃を憂慮



ウッドピア木質バイオマス利用協同組合を設立



木質チップ



松阪木質バイオマス熱利用協同組合を設立



蒸気



辻製油の工場熱源として利用

大量の  
温水



石油換算で年間 8,000kl削減  
CO2発生を 23,000トン削減  
年間で億単位のコスト削減



# 植物工場プロジェクト -うれし野アグリ株式会社-

## 事業目的

- ・ 工業の「技術」、商業の「経営/ノウハウ」、地域資源を活用した新たな農業ビジネスモデルの構築
- ・ 地域に新たな雇用を創出、および障がい者が活躍できる新たな地域農業モデルを構築

## 実証事業拠点

○三重県松阪市にて、先進的農業コンソーシアムによる省エネルギー型施設園芸事業を実施

### ▼先進的農業コンソーシアム

辻製油

・加工品開発技術

浅井農園

・栽培管理技術

イシグロ農材

・施設設計技術

三井物産

・海外普及展開

工業、商業、農業の技術・ノウハウを結集し、地域に新たな事業モデルを構築



地域発で反収1,500万円の農業モデル構築

- ・約30名の新たな地域雇用の創出
- ・障がい者が活躍できる地域農業モデルを模索

### サポート体制

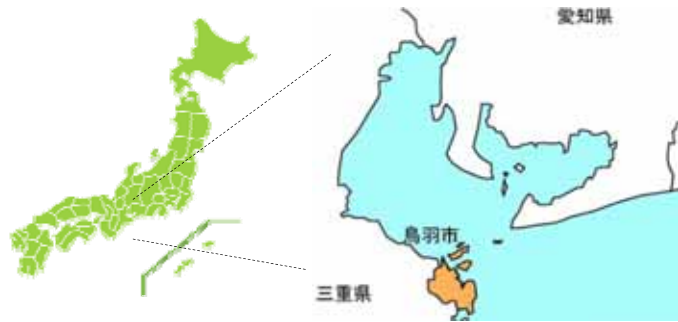
三重大学

三重県農業研究所  
Mie Prefecture Agricultural Research Institute

- ・施設の省エネルギー化技術
- ・トマトの栽培技術協力 等



# 地域連携で新しい「売り場」を創る(鳥羽マルシェの創造)

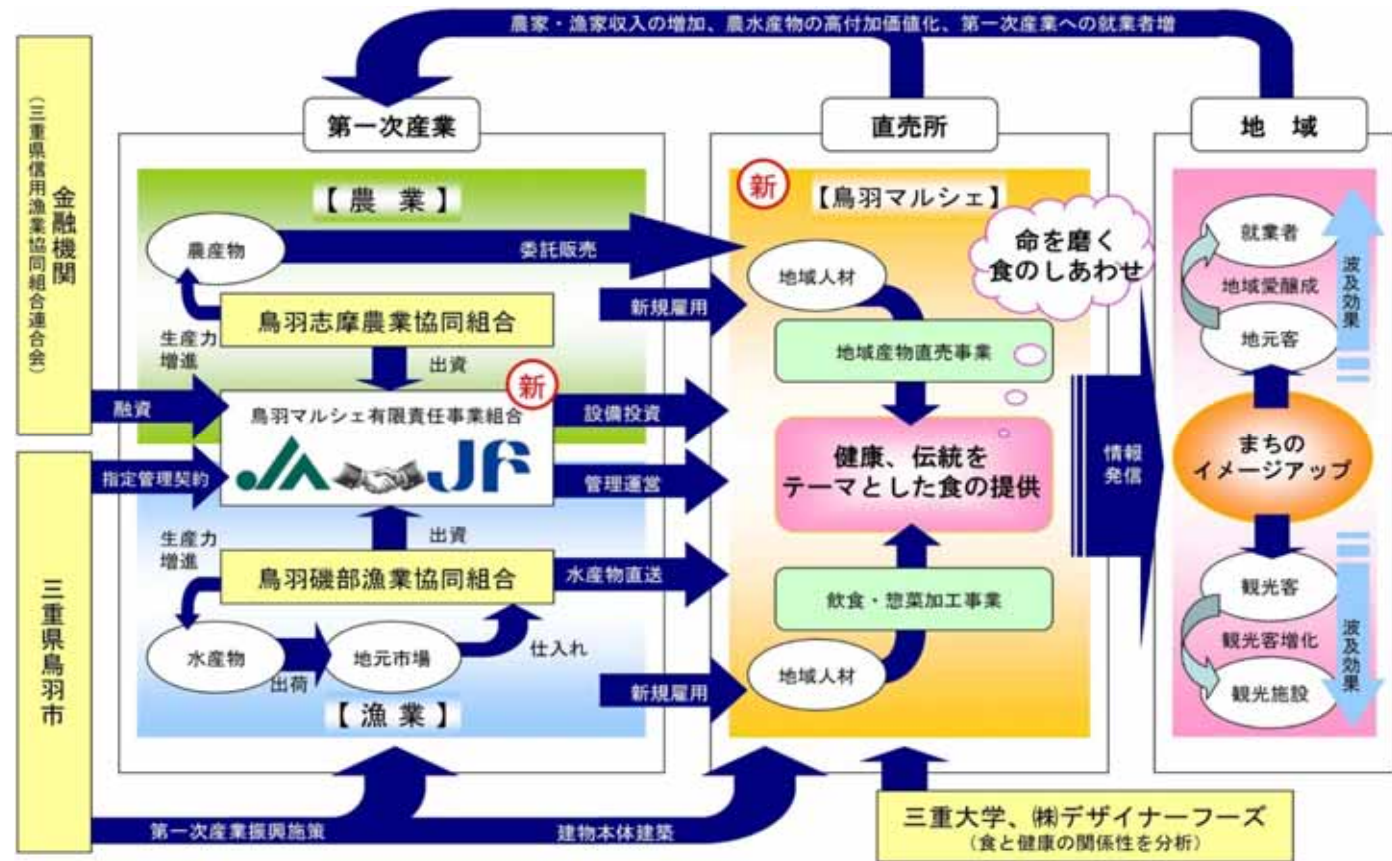


## 鳥羽の実情

- ・鳥羽で獲れた魚のほとんどが鳥羽から出ていく。
- ・鳥羽のスーパーでは鳥羽の魚が手に入らない。
- ・鳥羽の農作物を出荷する場所がなくなっている。

「鳥羽で採れたものは鳥羽で食す」仕組みを再構築する

**鳥羽市**  
**JA**  
**漁連**  
が立ち上がった



# 新しいタイプ(自立型)の若手農業者・漁業者が地域に定着し始めている



みえ次世代ファーマーズ **miel**

みえ次世代ファーマーズ miel は  
三重県内の次世代農業者による農業者のための  
サポート組織であり

下記4つのカテゴリの課題解決に取り組んでまいります。

## 技術力の向上

Technical capabilities

- ◎品目に分かれて部会を発足し、農業技術の共有と向上を図る。
- ◎県内農業者を集めて情報交換と交流会
- ◎安価に土壌分析を実施

## 商品力のアップ

Improvement in quality

- ◎量をまとめて競争力の強化
- ◎多品目をまとめて直販やイベントを実施
- ◎代行営業の実施

## 人材開発

Human development

- ◎地域間の人材の流動促進
- ◎農業者研修や雇用の受け入れ
- ◎農業者にフォーカスしたブランディングとPR

## 社会連携事業

Social cooperation

- ◎農業者を企業とつなぎ新たなイノベーションを創出
- ◎農業者を大学とつなぎ新たなイノベーションを創出

miel は農業界の  
『トータルソリューションカンパニー』  
を目指します。



〒514-8507  
三重県津市栗真町屋町1577  
三重大学キャンパスインキュベータ219 (社会連携研究センター2F)  
TEL&FAX:059-231-9882



株式会社かきうち農園  
垣内 清明



紀伊ファーム  
石倉 至



株式会社浅井農園  
浅井 雄一郎



椎草屋加藤  
加藤 公彦



みやまや  
西村友一

# 三重大大学の産学連携の考え方

1. 三重大大学には、三重地域圏の「**知の拠点**」として機能する使命がある。このため、「**社会連携部門**」を教育・研究部門と**対等な学内組織**とし、**大学知財の社会還元推進の司令塔**と位置付ける。

○三重大大学での取り組み

- ・産学連携による教育研究に特化した「**地域イノベーション学研究科**」を設置した。(平成20年)
- ・大学が地域貢献するためのシンクタンクとして「**地域戦略センター**」を設置した。(平成23年)

2. 三重大大学としての**社会連携の目的を明確にし、地域社会と共有させる。**

○三重大大学での取り組み

- ・産学連携の目的を「**地域産業の成長を支援することで地域と共に発展する**」と明確化している。
- ・**地域産業界の重鎮が「客員教授」として大学教育・組織改革に参画している。**
- ・**地域行政機関と協働できる体制を整えている。**

3. **地域で活動する人々が分け隔てなく集まり、協働作業ができる「地域のたまり場」として機能できる唯一の機関は「地方大学」である。**



# 産学連携を支える人材像

コーディネーターではなく「プロデューサー型人材」が求められている

○コーディネーター型(ものごとを調整する人?)



大学教授

+



企業経営者



出会い



どこに行く?

○プロデューサー型(生産者、制作者)



大学教授

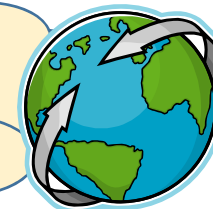


企業経営者



プロデューサー

両者の連携で生み出す世界を想像する



事業化